

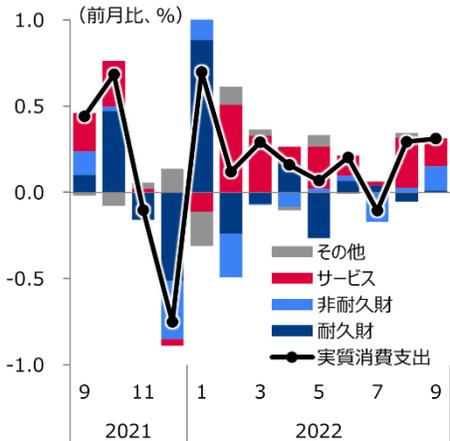
米国

個人消費支出・個人所得（2022年9月）

政策・経済センター
浅井優汰
03-6858-2717

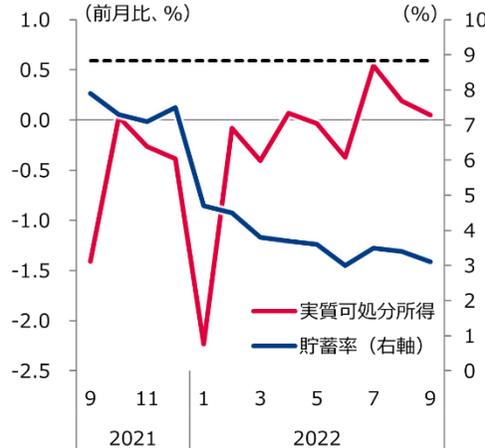
高インフレのなか、個人消費は底堅さをみせるも、先行きは低調に推移

1 実質消費支出



出所：米国商務省より三菱総合研究所作成

2 実質可処分所得・貯蓄率



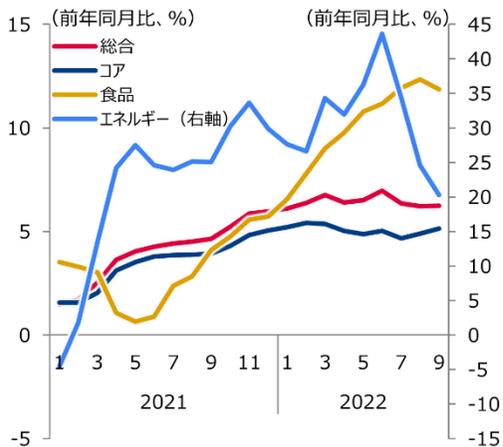
注：破線は19年の貯蓄率平均。
出所：米国商務省より三菱総合研究所作成

評価ポイント

今回の結果

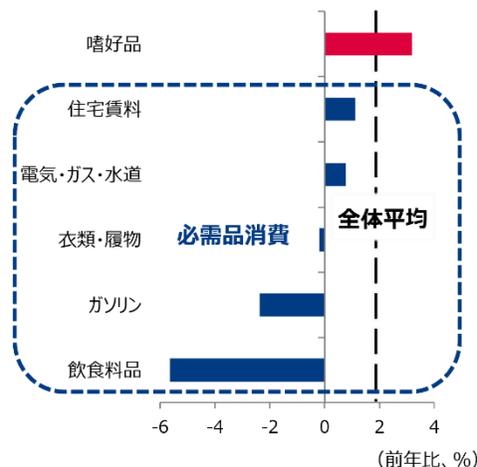
- 22年9月の実質消費支出は前月比+0.3%（8月同+0.3%）と2カ月連続で上昇した（図表1）。内訳をみると、耐久財は同+0.1%（8月同▲0.3%）と小幅の上昇にとどまったが、非耐久財が同+0.6%（8月同+0.1%）、サービスが同+0.3%（8月同+0.5%）と堅調に推移し全体を押し上げた。
- 実質可処分所得は同+0.05%（8月同+0.2%）と上昇幅は縮小したが、2カ月連続でプラスとなった（図表2）。貯蓄率は3.1%（8月3.5%）と2カ月連続で低下し、22年6月（3.0%）以来の低水準で推移している。
- PCE物価指数は、総合が前年比+6.2%（8月同+6.2%）と横ばいであった（図表3）。一方、変動の大きいエネルギーと食品を除くコアは同+5.1%（8月同+4.9%）と2カ月連続で伸びが拡大した。輸送（9月同+16.4%）などサービスの伸びが2カ月連続で拡大しており、コア全体を押し上げた。

3 PCE物価指数



出所：米国商務省より三菱総合研究所作成

4 実質消費支出の前年比



注：数値は21年9月比。嗜好品は全体から必需品品目を除いた数値。

出所：米国商務省より三菱総合研究所作成

基調判断と今後の流れ

- インフレ高止まりのなか、実質消費は2カ月連続でプラスとなり、底堅さを維持した。労働需給のひっ迫が実質可処分所得の伸びを下支えしているほか、外食・宿泊などのサービス消費が堅調に推移したことがある。
- もっとも、先行きの実質消費は横ばい圏内での低調な推移を予想する。①インフレ率の高止まり、②大幅な利上げ継続にともなう雇用環境の段階的な悪化、が消費の抑制要因となるからだ。
- インフレ高止まりは、支出に占める必需品割合が高い低所得層を中心に消費を抑制させる恐れがある。22年9月の実質消費支出の前年比をみると、嗜好品消費は全体を上回る伸びで推移した一方、価格高騰が顕著な飲食料品やガソリンなどの必需品は抑制されている（図表4）。消費者マインドも低下基調であるため、必需品消費抑制によって消費全体も低調に推移するだろう。